

さわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 ☎099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

四月・・・教育のメッカ・十島 十島村教育長 原口 英典

4月1日、夜11時。24人の転入教職員、また、その家族を乗せたフェリーとしまが、七つの島々に向け、錨を上げ出航した。

「先生」として、初めて子どもの前に立つ人。教職2校目の人。3校目、4校目の人。5校目で念願の十島村の学校に赴任できる人。初めて校長として、また、教頭として赴任する人。

さまざまなキャリアの人が、また、親の、そして、連れ合いの転勤に伴っての転校や同伴者として同行する人たちが、一隻の船に乗り込み、それぞれの目指す島へと旅立っていく。闇夜の向こうに待つ未知なる希望の島、学校、そして、そこに暮らす人々との出会いを、約6時間～13時間後に控え、まだ見ぬ土地だからこそその不安や大いなる期待とに包まれての転入教職員とその家族。揺れる船上にあって、揺れない決意をあらためて固める瞬間だ。

まだ暗い朝5時過ぎ、最初の島・口之島に接岸。9人の子もたちが、そして、同僚が、島民の方々が、歓迎幕を準備し、小雨の中、ライトに照らされ、出迎えてくれる。これからやってくる「先生」をこんな時間に待っているのだ。何という光景だろう。教育の原風景が、そして失いたくない原型が、ここには脈々と息づいている。

港での略式の着任式に臨む。紹介を終えると、子どもや校長先生から、赴任教職員に対して、不安をかき消すような激励の言葉、また、慣れない船旅へのねぎらいの言葉がかけられる。赴任者の腹が固まった。「頼んだよ」と言葉をかけ、船に戻る。「この子らを託したよ。頼むぞ」祈りの中に目頭が熱くなってくる。

少しの不自由もあろう。多少の不便もあろう。しかし、「思うようにならないことをよしとする生き方」「不自由の持つ価値をよしとする生き方」を、ここ十島で展開し、「あなたの熱い思いで、子どもらの心・魂に火を灯してほしい」そう願う。

【セブンアイランド移動図書館の御利用を！】

本年も伝統ある「セブンアイランド図書館」を4月19日（金）出航のフェリーとしまで巡回開始しました。ひと月もしくはふた月毎に巡回されます。

読書は、「心の栄養源」とも言われます。本年度も多くの方々が本図書館を御利用下さるようよろしくお願いいたします。

【平成25年度転入教職員壮行会】



4月1日（月）にフェリーとしまの船内で、転入教職員壮行会が行われました。

肥後村長、緒方教育事務所長から激励の言葉を賜り、「宣誓式」のあと一人一人に決意を語っていただきました。大勢の温かい見送りに感動しての出発となりました。

	小学校	中学校	合計
口之島 小中学校	3人	2人	5人
中之島 小中学校	1人	1人	2人
平島 小中学校	3人	3人	6人
平島小中学校 諏訪之瀬島分校	2人	3人	5人
悪石島 小中学校	3人	1人	4人
宝島小中学校 小宝島分校	2人	1人	3人
宝島 小中学校	3人	5人	8人
合計	17人	16人	33人

十島村教育委員会に、富田忠弘社会教育指導員の後任として、崎田憲司社会教育指導員、繁山良則学校事務主査の後任として、堂園恵理学校事務主査が転入しました。前任者同様よろしくお願いたします。

【 村内小中学校入学式挙行 】

平成25年度新入生入学式が4月8日（月）行われました。十島村内全島で小学生もしくは中学生が新たに誕生しました。<平成25年度島別入学者数>



口之島小学校	1名
中之島小学校	3名
宝島小学校	1名
口之島中学校	1名
平島中学校	1名
諏訪之瀬島分校	2名
悪石島中学校	1名
小宝島分校	1名
宝島中学校	1名

ありがとう口之島 南日本新聞「若い目」 <H25.4.5>より 大隈 翔太 現高校1年生(口之島中学校卒業)

僕は中学1年生のとき、山海留学生として口之島に来ました。慣れない環境や生活にストレスを感じたり、ホームシックになることもありました。しかし、僕を温かく迎え入れてくれた里親さんや島の方々、学校の仲間や先生方のおかげでだんだんと島になじむことができました。魚と泳いだり、ウミガメの産卵を見学するなど、島でしか体験できないことをたくさん体験できました。そして今春、僕は口之島中学校を卒業し、志望校にも合格できました。

僕は「口之島に来て、本当に良かった」と思っています。島で貴重な体験ができたこともそうですが、一番は、僕自身が変わることができたからです。僕はこの口之島に来る前までは、人前で話すことができず、小さな声になったり、思ったことを伝えることができなかつたりと、他人と話すことに恐怖を感じていました。

しかし、口之島に来てからは、意見や感想を言う機会が多くて、最初は「嫌だ」と思いましたが、発表回数を積み重ねることで、今では人前ではっきりと大きな声で話せるようになり、他人と話すことへの恐怖もなくなりました。

僕はこれから高校に進学し、自分の決めた道を進んでいきます。その中で、つらいことや悲しいことがあって逃げ出したくなったときには、第二の故郷となる口之島を思い出し、一步一步前へ進んでいきたいです。



絆 シリーズ 山海留学生として学ぶ
宝島での6か月を振り返って (最終号)
坂野 誠省 現在高1年生<熊本市>(宝島中2年生時)

これまで僕は、学校や先生という存在が苦手で、その場から逃げ出したり、避けたりしてきました。しかし、宝島では、毎日楽しく、一日も休まずに登校できたことが大きな自信になりました。また民宿から見える宝島の風景、学校の教室から見える美しい景色、そして、宝島で出会った皆さんからの優しい気持ちは、大切に心に持ち続けたいです。

熊本で好き勝手に過ごしていた生活習慣も、こっちに来て、だいぶ規則正しくなってきたと思います。これは僕だけの努力じゃなく、里親の方や、島民のみなさん、先生方など周りの皆さんがいて下さったからだと思います。

山海留学はもう終わりますが、宝島で学んだ事や、宝島での思い出をずっと心に持ち続け、熊本に帰っても、自分の将来の夢に向かって精一杯努力していこうと思います。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

【子どもたちの作品】 MBCラジオ 「私たちの作文」2013.2.10放送 高校見学を体験して 宝島中学校2年 伊地知 麻鈴 <宝島中1年時>

私は宝島という所に住んでいます。宝島とは、十島村という七つの島が集まったうちの一つで、鹿児島から約三百キロメートル離れた小さな島です。

そんな宝島の学校は、小学校と中学校が一緒です。しかし、小中学校合わせても人数は九人しかいません。それでもみんなで協力して頑張っています。人数が少ないのは宝島だけでなく十島村も同じです。十島村の中学一年生を合わせてもたった五人しかいません。

そこで、毎年交流学習をします。交流学習は十島村の生徒と鹿児島島の生徒の交流を深めるための学習です。今年も高校見学に行きました。どのような高校なのかを実際に見て、自分の進路に役立てようというものでした。

まず最初に、鹿児島城西高校に行きました。城西高校は、多くの学科がありました。

例えば、ヘアデザイン科やファッションデザイン科などの学科があり、すごいと思いました。

(5月号へ続く)

十島村の小・中学校からのメッセージ

平島中学校諏訪之瀬島分校 教諭 西村 千英子

二年前、小規模校勤務の経験がなかった私は、本校に赴任することになりました。単身で赴任する私に、親身になって何度も相談に乗ってくださった前任校の校長先生や、離島勤務を理解してくれた夫には今でも感謝しています。

初めは不安でしたが、親切な島民の方々や楽しい先生方、素直で明るい子どもたちのおかげですぐに諏訪之瀬島での生活に慣れることができました。また、タケノコ採りやウィンドサーフィン、魚釣りなどの島ならではの行事はもちろん、昼休みや休日に子どもたちと遊ぶことや、朝に野鳥の鳴き声で目が覚めること、夜空を見上げると天の川や流れ星が見られることなど、本当に新鮮で充実した毎日でした。

職員数が少ない本校では、専門以外の教科を複数受け持ち、校務分掌も多くなります。人数が少ない分、職員一人一人が持つ力、今までの経験や知恵を最大限に生かす必要があります。最初の一年間は、「学校や児童生徒のために、私は一体何ができるのか。」と悩む日々でした。しかし、自分に欠けている部分に改めて気づかされ、ここだからこそ経験できること・学べることを吸収しようと考えようになりました。気がつけば、諏訪之瀬島での生活も三年目。もっと自分の技術を磨き、微力ではありますが、子どもたちや島民の方々に還元していきたいと思っています。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

私は十島村の学校教育に携わることができて、本当に幸運だったと思います。人数は少なくても、「自分の力をもっと伸ばしたい。」と考える子どもたちが、目を輝かせながら先生方を待っています。皆さんもぜひ、十島村の教育の素晴らしさに触れてみてください。